

フランスの高校職業教育から大学への接続

—会計コースに着目して—

近畿大学教職教育部特任講師 細尾 萌子

はじめに

フランスでは、高校職業コースの修了を認定する職業バカロレア試験に合格すると、驚くことに基本的にどの大学にも入学できる。この職業バカロレア試験は、全商協会の検定試験のように、職業コースの学習指導要領で示されている教育内容の習得度を測る資格試験である。

本稿では、このフランスの高校職業コースから大学へのスムーズな接続がどのように成立しているのかを、会計コースの実例をもとに紹介する。その上で、日本の高校職業教育への提言をしたい。

なお、この「職業バカロレア試験」は、文部科学省が平成24年度から普及を推進する「国際バカロレア」とは全くの別物である。国際バカロレアは、海外に滞在しながら大学進学をめざす生徒のための世界共通の大学入学資格である。国際バカロレア機構（本部はスイス）が定めた後期中等教育カリキュラムを修め、所定の試験に合格すると、この資格が授与される。国際バカロレアは、200年以上の伝統のあるフランスの国家資格であるバカロレアに学んで1968年に創設された、新しい制度である。そこで本稿では、本家本元のバカロレアに焦点を当てる。

まず、フランスの教育制度を概観してみよう。フランスでは、6歳で入学する小学校が5年、中学校が4年、高校が3年、大学が3年である。義務教育期間は6歳から16歳までである。

小学校から高校までは、日本の方がフランスよりも公立の率が高い。しかし、日本の大学は私立が主であるが、フランスでは全ての大学が国立である。

2010年高校卒業者の大学進学率を比べると、日本は54.3%であるのに対し、フランスは約31%である。フランスには大学の他、エリート養成機関や短期の技術教育機関など多様な高等教育機関があり、そこに進む人も多いからである。

1. 職業バカロレア試験とは

続いて、高校職業コースと大学をつなぐ職業バカロレア試験の概要を紹介する。

フランスでは、高校最終学年末に全国一斉に実施される「バカロレア試験」に合格すると、基本的にどの大学にも入学できる。各大学の選抜試験は行われていない。バカロレア試験は、中等教育修了認定資格と大学入学資格を兼ねるバカロレアを付与する資格試験である。2010年の合格率は85.6%で、同年齢層内バカロレア取得率は65.7%である。つまり、10人のうち6、7人はバカロレア資格取得者である。

高校には三つのコースがある。普通コース（普通教育）と技術コース（バイオテクノロジーなど一般的な職業教育と普通教育）、職業コース（文書実務・情報管理など特定の職業に関連した職業教育と普通教育）である。職業コースには、熟練労働者資格である職業適格証の取得をめざす2年制のコースと、職業ごとの約80の専門領域に分かれて職業バカロレア試験の準備を行う3年制のコースがある。

バカロレア試験には、普通コースに対応した普通バカロレア試験（1808年創設）と、技術コースに対応した技術バカロレア試験（1968年創設）、職業コースに対応した職業バカロレア試験（1985年創設）の3種類がある。職業バカロレア試験は専門領域ごとに実施される。バカロレア試験の合格者の割合は、普通：技術：職業＝約5：3：2である。2010年の職業バカロレア試験の合格率は86.5%である。

高校職業コースにおける職業バカロレア試験の準備教育は、高校における教育と、各学年6～10週間の企業での職業実習とで構成されている。高校では、週30時間の必修科目と週2～6時間の選択科目がある。必修科目のうち、46.7%（14時間）が、当該の専門領域の職業と関連した職業教育科目である。

職業バカロレア試験は、全員が受ける七つの科目（会計なら科学・技術、職業的研究の発表、職業実習、外国語、フランス語／歴史・地理、芸術・応用芸術、体育・スポーツ）と選択科目1科目からなる。

試験方法については、1時間から3時間に及ぶ筆記試験が中心で、30分ほどの口頭試験もある。職業実習と芸術・応用芸術、体育・スポーツは、試験ではなく、職業科の授業や職業実習中の平常点で評価される。授業者または実習担当者が評価する。

試験問題は全国共通である。多肢選択問題はなく、短答問題や論述問題が中心である。

各科目は20点満点で採点され、科目ごとの傾斜配点がかかる。この得点の平均と職業実習の点数がともに10点以上で合格となり、職業バカロレア資格が授与される。10点未満は不合格であるが、8点以上であれば中等職業教育修了証書が与えられる。ただし、この修了証書では大学に進学できない。

試験の問題作成と採点、合否判定は、主に高校教師が行う。当該の分野の雇用者と労働者も参加する。合否決定の際、受験者の出身校の内申書も参照される。一発勝負の試験で実力が出せなかった生徒についても、その実力を把握するためである。

以上のように職業バカロレア試験は、当該の職業に関する試験科目や企業人の関与など、職業と密接に結びついた構成で行われている。また、問題作成や採点の中心が高校教師であることと、選択肢問題がないことも特徴的である。日本の大学入試では大学教員が問題作成や採点を行い、センター試験など選択肢問題が中心であるのと対照的と言えよう。

2. 会計の職業バカロレア試験の問題の特徴

この職業バカロレア試験では、実際にどのような試験問題が出されているのだろうか。事例として、「会計」コースの職業バカロレア試験問題を見てみよう。会計コースは、受験者が三番目に多い専門領域である（全体の約10%）。なかでも、配点が最も大きい科目（全24中5）である「総合職業活動」の試験問題を検討する。3時間の筆記試験である。

「総合職業活動」は、会計や経営、コミュニケーション、組織に関する職能と知識を活用して、実際の職業の状況における問題を分析し解決できるかを評価する試験科目である。

2010年の試験問題では、様々なセクターの活動を行う従業員90人の企業に職業実習中という状況

が設定されている。受験生はこの企業の会計実習生として、複数の資料に基づきながら、次の五つの職業活動に取り組む。取引の記帳と帳簿の締め切り、損益の分析、損益計算書の作成、定型文の作成である。選択肢問題はない。記帳の問題では、複数の領収書を、仕訳帳に自分で記帳することが求められる。作成した損益計算書をもとにして、ある活動セクターを廃止すべきかどうかを二つの論拠に基づいて説明するなど、答えの理由を文章で解答する問題もある。

この試験問題から、職業バカロレア試験の問題には、次の二つの特徴があることがわかる。一つは、実際の職業活動で必要とされるような具体的な状況の問題であることである。もう一つは、答えだけではなく、なぜその答えが出たかのプロセス・根拠を書くことを求める問題があることである。

3. 会計の職業バカロレア試験の評価基準

このように選択肢でない問題で、採点の客観性をどうやって確保しているのだろうか。職業バカロレア試験では、専門領域ごとに、「資格規準群」という評価基準が定められている。職業教育科目の合格に必要な職能や知識とその要求水準が示されている。これが全ての採点者に共通の評価基準となる。

会計の職業バカロレア試験の資格規準群では、評価対象の職能と知識が、82頁にわたる公的文書で具体的に規定されている。職能は、会計領域の職能と、コミュニケーション・組織領域の職能に分かれている。他方、評価対象の知識は、当該の職業に関連した専門的な知識と、職業活動の遂行に不可欠な経済・法律の知識からなる。

この会計の資格規準群をもとに、「総合職業活動」の評価の6観点が定められている。

- ①分析の厳密さおよび、なされた選択と提案された解決法の適切さ
- ②解答の明晰さと信頼性
- ③手順と指令の遵守
- ④提案された監査の適切さ
- ⑤結果の正確さ
- ⑥注釈の明晰さおよび、文章表現の質、使われている語彙の的確さ

このように職業バカロレア試験では、詳細な評価基準が作成され、全国の採点者に使用されている。そのため、論述問題であっても、一定の客観性を保

って採点できている。実際、採点の客観性に関する大きな問題はこれまで起きていない。採点者である高校教師が社会で高い信頼を得ていることも、採点がうまくいっている要因であろう。

4. 高校職業コースと大学との接続の状況

では実際に、高校職業コースを修了して職業バカロレア試験に合格した人が、大学へとどのくらい進んでいるのだろうか。制度的には、いずれのバカロレア資格を取得しても、どの大学にも進学できる。

ゆえに、高校で職業教育を学んだ学生が、普通教育を学んだ学生と肩を並べて大学で学んでいる。2010年の職業バカロレア資格取得者のうち、1年後に51.2%は就職し、26.7%は高等教育に進学した。進学者の7割弱は短期の高等技術教育機関に進んだが、2割強（取得者の6.9%）は大学に進んでいる。

フランスの大学には基本的に格差がない。フランスは資格で職業が決まる資格社会であり、どの大学で取った資格もその等価性が法的に保障されているためである。つまり、どの大学を修了しても社会では同じように評価される。それゆえ、1253年創設の伝統あるパリのソルボンヌ大学にも、職業バカロレア資格取得者が入れるシステムになっている。

5. 日本の高校職業教育への提言

以上を踏まえ、日本の高校職業教育について若干の提言を述べたい。正解のプロセス・根拠も求める職業バカロレア試験の出題方法は、検定試験等の問題作成のヒントになると同時に、高校の授業改善につながると考えられる。試験では、作業結果を出すだけでなく、その結果が出たプロセスや根拠を説明することが求められている。そのため、高校職業コースの日常の授業でも、答えを暗記するだけでなく、その答えが出た理由を書いたり口頭で説明したりする学習が行われている。これは、今の学習指導要領で重視されている、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力の育成にリンクすると言える。

このように答えのプロセス・根拠を求めることは、普段の授業や定期考査にすぐに取り入れられる。どうやって答えが出たのか、それはなぜかを発問したり、自分の考えを書かせたりすることで、断片的な個々の知識がつながり、大学や社会ですぐに使える知識になる。知識をもとに考えたり表現したりすると、知識のネットワークができるからである。このように職業バカロレア試験は、知識や技能の活用力が身に付く授業を創る一つの鍵を示してくれている。

日本簿記学会第28回全国大会「高校簿記教育懇談会」のお知らせ

日本簿記学会理事 横浜市立横浜商業高等学校

粕谷 和生

本年の日本簿記学会第28回全国大会は、熊本学園大学（準備委員長 藤田昌也先生）で9月9日・10日に開催されます。今年も例年どおり「高校簿記教育懇談会」を開催します。多くの皆様に参加していただけますように、9月9日（日）の午前中を予定しております。なお、従来から、本懇談会は広く高校の先生方に開かれており、会員でない先生にもご案内申し上げる次第です。

本年の「高校簿記教育懇談会」は、昨年につき「IFRS（国際会計基準）」を取り上げ、大学の先生方にも参加をお願いして意見交換を行いたいと考えております。また、コメンテーターには、九州大学の角ヶ谷典幸先生をお迎えする予定です。

なお、毎年コメンテーターを務めて下さいました帝京大学の新田忠誓先生（一橋大学名誉教授）は、本学会の会長に就任されました。長い間、高校簿記教育懇談会を指導していただき、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

参加をご希望の先生は、会場準備等の都合もございますので、Eメール・FAX・電話のいずれかで、お名前・学校名・連絡先を添えてお申込み下さい。特に申込の期限は設けませんので、どうか振ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

参加申込先

横浜市立横浜商業高等学校 粕谷和生

Eメール tk-kas01@edu.city.yokohama.jp FAX (045)713 - 3969 電話(045)713 - 2323

2012年5月21日 印刷
2012年5月25日 発行
定価 210円
(本体200円)

◎編修・発行

実教出版株式会社

代表者 戸塚 雄武

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5
TEL. 03-3238-7777
http://www.jikkyo.co.jp/